

令和5年度 施設関係者評価 ・ 自己評価 (人権擁護のためのセルフチェックリスト)

幼保連携型認定こども園 若宮こども園

1. 本園の教育・保育目標

丈夫な体・豊かな心

- ☆ 自然の中で生き生きと、目を輝かせて遊び、健康な体づくりと良好な友だち関係を築く。
- ☆ 暖かく家庭的な雰囲気の中で教育・保育し、情緒の安定を図ると共に一人ひとりの個性や意欲を伸ばす。

2. 本年度に取り組む重点事項

- ☆ 子どもが主体的に取り組めるような行事にしていく。
- ☆ 各クラスの保育室の環境設定を考え、おもちゃの設定の仕方なども整えていく。
- ☆ 年齢に合った、主体的な教育・保育につながるようにしていく。
- ☆ 不適切保育にならないように職員全体で話し合いをしていく。
- ☆ 保護者支援として、保護者からの困りごと等を聞き安心して子育てできる様にしていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み内容

	評価項目	園評価	施設関係者評価
1	若宮こども園全体の雰囲気は明るく活気がある	A	A
2	若宮こども園の教育活動について共感できる	A	B
3	若宮こども園の教育・保育目標を理解し、保護者・来園者に分かりやすく説明できるか	B	A
4	若宮こども園では、特色のある教育活動を行い、その成果を上げているか	A	A
5	子育て支援事業は、充実している	A	A

6	遊具、玩具、絵本等が整備されている	B	A
7	園内や園庭の清掃などの環境整備が行き届いている	A	A
8	園児は楽しく園生活を送っている	A	A
9	園児は、落ち着いて生活している	B	A
10	園児は、行事に生き生きと取り組んでいる	A	A
11	保育教諭は、地域の方に対して社会人として常識ある言動で接している	A	A
12	こども園と地域との連携が取れている	B	A
13	子どもたちが安全に生活できるよう、安全・安心・防災・防犯に対する取り組みを十分に行っている	A	A

★評価につきましては、A・B・Cでお願いします。

A・・・達成されている

B・・・取り組んでいるがまだ不十分

C・・・全くできていない

4. 総合的なご意見・評価

【自治会会長】

貴園の教育・保育目標としての「丈夫な体・豊かな心」については、大瀬町の自然豊かな環境とご指導くださる先生方の優しさにより子どもさん達の成長に充分いかされていると思います。地域との交流につきましてはこれからもより深めていただきたくお願いいたします。

【保護者】

・卒園した姉が保育園からの友達に特別と言っていた。園生活は楽しく充実していた。子ども同士の絆を強くしたのだと感謝しています。

・保育中に子ども同士でトラブルが起きて、保護者も解決に関わらなくてはならない事案の場合、第一義の責任者は管理者であるこども園が引き受ける強い意志を示して頂く事で安心して子どもを預けることができるので、お願いしたい。

・毎日嫌がることなく楽しく通えるのは先生たちのおかげです。お迎えに行った時や連絡ノートなどで子どもたちの様子や成長を教えてください、信頼できる先生方ばかりで安心です。

・小さい子どもが2人いるので、毎日の荷物が多く登降園が大変なので、持ち帰りの荷物が少なくなると助かります。

【保育施設関係者】

・子どもたちは明るく元気もある。“教育・保育目標”は保育士一人ひとりが理解し説明できるように意識していきたい。

・玩具などは整備されつつあるが、量や質などの面で十分ではないところもあるので、今後も見直しが必要だと思う。玩具の管理の仕方も見直したい。

・年々落ち着きのない子が増えてきていると思う。

・コロナ禍になり地域（敬老会など）の交流がなくなってしまったが、園外に出たの散歩時には挨拶などはできている。

・災害に対する訓練や対策はできているが防犯面での訓練対策が不十分に思う。

【園長】

子ども達が過ごしやすい環境になるように話し合いをしています。個での関りが必要な子が年々増えているので、関わり方は園全体が共通理解できるように来年度以降もやっていきたい。教育、保育も子どもの主体性を重視した内容にしている。保護者の方にもわかりやすく理解してもらえようしていきたい。コロナも第5類になったので、地域との交流も増やし、近隣の自然にも触れる機会を増やしていきたい。保護者からの意見も大切にしていきたい。

・保育中の怪我やトラブルは保護者の方にはお伝えしますが、保育中の事なので、園の責任と思っていますが、小さな怪我などはお互い様と理解して頂く様に保護者の方にも理解して頂きたいと思っています。

・令和6年度に向けて毎日の荷物も最低限になるように、見直しをしています。

自己評価 ★ 人権擁護のためのセルフチェックリスト ★

(1) 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり	97%
(2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ	89.4%
(3) 罰を与える・乱暴なかかわり	98.2%
(4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり	100%
(5) 差別的なかかわり	99.4%

【 評価 】

セルフチェックリストを行うことで全体の意見が多かったのは、自分の保育のどこを見直せばいいかを具体的に知ることができ、意識して関わるできるようになったことだったので、全体で共有の認識ができてきていると思った。

チェックが一番少なかったものとして“(2)の物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ”では、子どもの気持ちに寄り添うことを意識している職員がほとんどだったが、午睡時に布団を友達の布団と離すことがそれになってしまうことを知り戸惑う保育者が多かった。布団を敷くときなども考えながら行うようにしなければいけないと思った。

“(3)の罰を与える・乱暴なかかわり”では、自分はそのつもりはなくても、見方によっては不適切だと思われるかもしれないというネガティブな意見もあり、自分の保育に自信を持つことや、園の様子など知らせながら保護者とのコミュニケーションをとっていく必要があると感じた。

どの保育者も、自分の保育を振り返ることができ子どもにとって最善の利益を守るための知識の共有ができたと思う。